

教師教育における学校行事の在り方に関する試論 —教職科目「特別活動と学級経営」履修学生の意識・実態に基づく検討—

教職実践開発専攻 林 幸 克

1. 学校行事の教育的意義

高等学校学習指導要領（2009）に、学校行事の内容について「全校若しくは学年又はそれらに準ずる集団を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行うこと」とされている。集団を通して学ぶ、体験によって学ぶという、特別活動の核となる部分があることは示されている。また、「体験活動を通して気づいたことなどを振り返り、まとめたり、発表し合ったりするなどの活動を充実するよう工夫すること」が配慮事項として挙げられており、言語活動の充実に果たす役割も看過できない。

これまで全国各地で展開されてきた学校行事の実践からも、その教育的意義が実証的に報告されている。

例えば、行事の実施・再編成について、小学生自身の自主的な話し合いと決定が重要で、そこでやる意味があると判断された行事は、その準備・運営に果たす児童の役割は大きく、行事の教育力を一層高めるとされている⁽¹⁾。また、体育大会や合唱祭といった学校行事を通して「友人と仲良くなれた」という効用感を得た中学生は、学校外で積極的に友人と一緒に遊ぶことができ、学校行事を通して友人関係が良好になると、学校内での関係に留まらず、放課後や休日などを利用して学校外で友だちと遊ぶようになると推察した論考もある⁽²⁾。あるいは、中学生が体育大会に一生懸命に取り組み、高い効用感を獲得することが自己有能感の向上につながり、また、社交性や勤勉性の形成にも影響力があることを示した研究⁽³⁾や学校行事への取り組みの工夫が、gang-groupの消失やchum-groupの肥大化によって失われた社会的なルールを学ぶ機会を得ること、対立や葛藤の経験をするに替わって、中学生の対人関係の発達を促す新たなきっかけになることを示唆したものもある⁽⁴⁾。

同じく、中学生を対象とした研究では、中学校における参与観察から、競争的行事は生徒のアイデンティティ再編の契機となっており、学年間の差異の強調やクラスの凝集性向上を助長することを指摘した論考⁽⁵⁾や中学校における文化祭（学級劇活動）の取り組みを実証的に分析し、学校行事を活用して生徒の学級適応に関する自己評価を肯定的に形成できることを示した研究もある⁽⁶⁾。

具体的な学校行事に着目した先行研究としては、「音楽祭」を、リーダー形成の観点から、どのような社会化機能を有するかと捉えると、中学生・高校生に多様なリーダー経験を積ませる場を、毎年新たに提供し続けていることにあるとした研究⁽⁷⁾や中学生・高校生は「音楽祭」に対して、賞を獲得するためにクラスがまとまり、結びつきが強くなることに満足感を見出している一方で、クラスで一つにまとまって取り組めなかったことへは不満を持つことを示した論考⁽⁸⁾、校外学習の教育機能として、日常の固定された人間関係を崩すこと、日常の人間関係では得られない親密さが得られること、集団活動を通じて人の評価が行われていることを挙げ、「自分くずし」「自分づくり」が行われているとしたもの⁽⁹⁾、文化祭について、中学生・高校生は、仲間集団の議論の中で合意形成の仕方を学んでいること、集団での協同作業を通して連帯感・充実感を得て、それが楽しさを支えていることを示した知見がある⁽¹⁰⁾。

高校生に特化した論考では、学校行事における高校生の成長について、対話と協調に関する能力（対人関係能力）が形成されていることを明らかにし、リーダー層は活動をコーディネートする存在となっていることを示したもの⁽¹¹⁾や定時制高等学校における儀式的行事に関して、指導内容の構造化により、生徒の連帯

感や学校への帰属意識が向上し、「絆づくりの場」の機能を果たすことを示した研究⁽¹²⁾、高等学校における事例研究から、「生徒たちは高校に入りその高校特有の学校行事を経験していくうちに校風や学生気質というその学校に特有のスクールアイデンティティを自己の内部に取り込み、集団に対する帰属意識を持ち、友情を培い、連帯を高めていく。」とした知見がある⁽¹³⁾。

このほかにも、子どもが規範意識を学んだ学校行事として、「学年集会、全校集会」「遠足」「修学旅行」「入学式」が上位であることを示した研究⁽¹⁴⁾、日本特別活動学会会員を対象とした調査で、「遠足（旅行）・集団宿泊的行事」における集団活動を通して、共同性、役割や責任を遂行するなどの能力が育成され、人間関係を形成する上で注目されるとしたものもある⁽¹⁵⁾。

2. 大学生の学校行事の認識と学校行事を取り巻く現況

こうした教育的意義のある学校行事について、大学生はどのように捉えているのであろうか。

これに関連する先行研究としては、大学生に過去の学校生活で最も強く「思い出」として残っていることを聞き、「修学旅行などの宿泊的行事」「部活動の練習・試合」「友人との語り」「体育祭・運動会などのスポーツ系行事」「文化祭・合唱コンクールなどの学芸的行事」が上位であることを明らかにした研究⁽¹⁶⁾や大学生対象に学校行事で身につく力を聞き、中学校・高等学校ともチームワーク力、目標達成感が上位であること、高等学校では中学校よりも感性を磨くこと、企画力が高いことを示した調査結果もある⁽¹⁷⁾。

これらを概観すると、大学生にとっても、学校行事は学校生活の中に占める比重は重く、そこでの活動を通して、様々なことを学んでいたことがうかがえる。

次に、その学校行事を取り巻く現況の一つとして、授業時数に着目したい。文部科学省「公立小中学校における教育課程の編成・実施状況調査の結果について」を整理すると、小学校・中学校ともに、授業時数「40以下」が年度進行に伴い増加傾向にあること、「70以上」が減少傾向にあることがわかる。「学校行事の中でも遠足等の減少、集団宿泊的行事の泊数の減、総合的な学習の時間との関連で勤労生産の奉仕的行事の廃止など精選が行なわれた。」とされるように⁽¹⁸⁾、その背景には、1998年・1999年の学習指導要領の改訂で総合的な学習の時間が新設されたこと、2002年度から学校週5日制が完全実施されたことなどがあるのではないかと推察される。

表1 学校行事の授業時数【小学校第5学年と中学校第1学年】

(単位：%)

学年	小5	中1	小5	中1	小5	中1	小5	中1	小5	中1
授業時数	40以下		41～49		50～59		60～69		70以上	
2002年度	14.9	23.3	18.9	16.5	24.5	18.4	19.9	15.9	21.8	25.8
2003年度	13.6	25.2	18.6	16.7	24.6	19.0	20.6	15.2	22.5	23.7
2004年度	14.5	29.5	19.8	18.7	25.7	18.6	20.2	14.0	19.8	19.2
2005年度	14.5	31.9	19.1	19.5	25.8	18.5	20.8	13.0	19.7	17.0
2006年度	14.2	33.2	19.3	18.9	26.0	18.4	20.3	12.8	20.2	16.6
2008年度	13.6	35.3	19.2	19.2	25.5	17.6	20.5	12.4	21.1	15.4
2010年度	18.5	40.9	21.3	19.2	25.7	16.4	19.4	11.3	15.1	12.2

(出典) 文部科学省「公立小中学校における教育課程の編成・実施状況調査の結果について」(各年度)をもとに筆者が作表

教育的意義があり、大学生が学校時代を回想しても学びの多かった学校行事であるが、授業時数そのものは減少傾向にあることが明白である。本稿ではそうした実情を踏まえた上で、これから教師を目指す大学生に対し、学校行事の指導について、どのようなことが求められるのか、実証的に検証する。

3. 大学生の印象に残る学校行事—小学校・中学校・高等学校時代の振り返り—

筆者が担当する教職科目「特別活動と学級経営」を履修する大学生に、自分自身の小学生・中学生・高校生時代を振り返り、最も良い印象に残っている学校行事に関して、行事の名称、行事の内容、印象に残っている理由、その行事における児童生徒と教員の関わりについて、授業の中で配布・回収するレポートを課した。

2010年度252名、2011年度239名、2012年度238名、合計729名のレポートから、その実情を明らかにする。なお、履修した学生は基本的に学部3年生で、レポート回答の時期は、2010年度は12月、2011年度・2012年度は10月である。以下では、行事の名称（名称から分類が困難な場合には、行事の内容から種類を判断した）に着目する。

(1) 学校段階

小学校・中学校・高等学校、どの学校段階の学校行事が印象に残るものとして挙げられているかみると、全体では、小学校19.5%、中学校38.0%、高等学校39.5%、その他（小中一貫校、中高一貫校など）3.0%であった。

年度別では、2010年度で小学校25.0%がやや多いが、総じて、中学校・高等学校が約8割を占める結果であった。

表2 「大学生の印象に残る学校行事」の校種（n=729）（単位：%）

	小学校	中学校	高等学校	その他
2010年度	25.0	42.1	31.3	1.6
2011年度	16.3	38.5	41.0	4.2
2012年度	16.8	33.2	46.6	3.4
合計	19.5	38.0	39.5	3.0

(2) 具体的な学校行事

次に、具体的にどのような学校行事が挙げられているのか確認する。

全体では、「体育祭・運動会」21.0%が最も多く、以下、「文化祭・フェスタ・学芸会」18.5%、「合唱コンクール・祭」13.7%、「学園祭（文化祭+体育祭）」9.5%、「修学旅行」9.1%と続いた。

年度別にみても、ここに挙げた5つの行事が上位になっている。その中でも特に、「体育祭・運動会」、「文化祭・フェスタ・学芸会」、「学園祭（文化祭+体育祭）」を合計すると、2010年度44.1%、2011年度47.7%、2012年度55.4%となっており、増加傾向にあり、全体でも49.0%で、約半数はこれらの行事に占められていることがわかる。

また、学習指導要領に即して学校行事を分類すると、健康安全・体育的行事28.7%（「体育祭・運動会」、「球技大会」）、文化的行事37.0%（「文化祭・フェスタ・学芸会」、「合唱コンクール・祭」）、旅行・集団宿泊的行事13.2%（「修学旅行」、「野外宿泊学習・通学合宿」）、勤労生産・奉仕的行事2.5%（「収穫祭・農業体験」）は挙げられているが、儀式的行事はない。なお、「学園祭（文化祭+体育祭）」9.5%は、文化的行事4.8%、健康安全・体育的行事4.8%と便宜的に分けたことをお断りする。

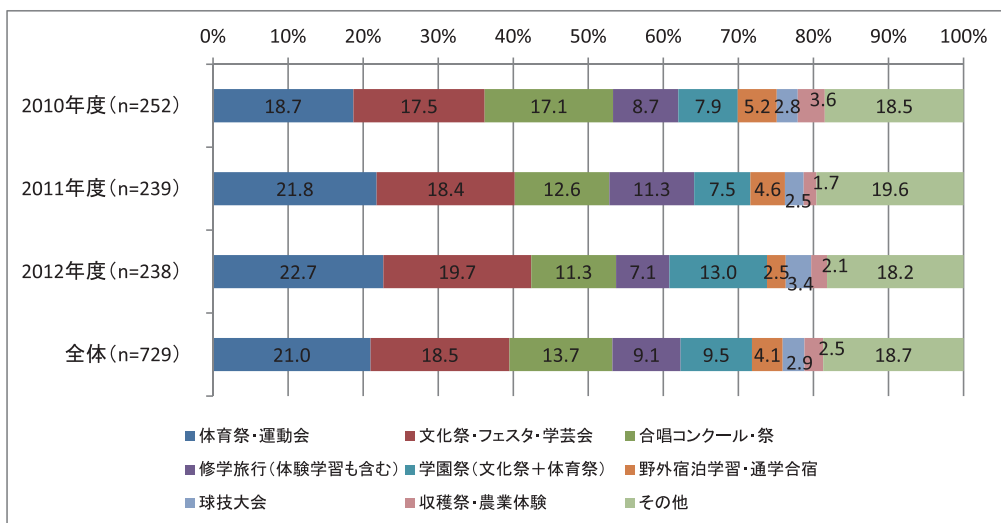


図1 「大学生の印象に残る学校行事」(年度別・全体)

(3) 学校段階別「大学生の印象に残る学校行事」

小学校時の学校行事を挙げた時の具体的な内容をみると、「文化祭・フェスタ・学芸会」が24.6%で最も多く、以下、「収穫祭」10.6%、「野外宿泊学習・通学合宿」9.9%、「体育祭・運動会」7.7%、「修学旅行」7.0%、「地域探検・自然調査・ウォークラリー」7.0%と続いた。

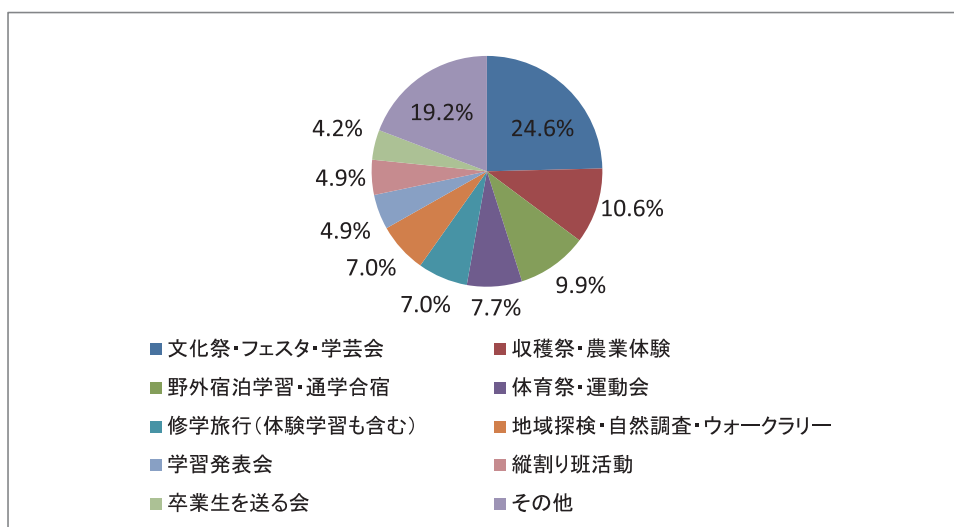


図2 「大学生の印象に残る学校行事」(小学校 n=142)

中学校時の学校行事を挙げた時の具体的な内容をみると、「合唱コンクール・祭」が33.2%で最も多く、以下、「体育祭・運動会」31.4%、「修学旅行」9.4%と続いた。

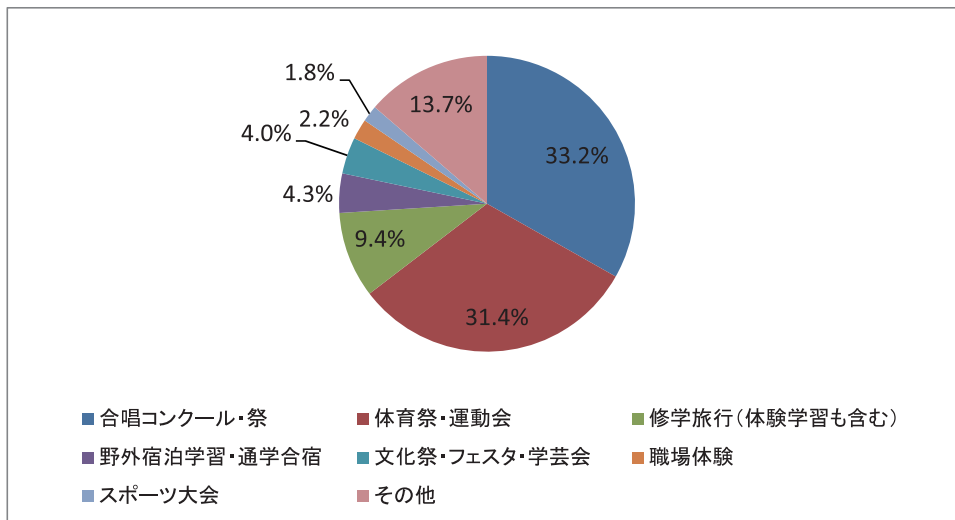


図3 「大学生の印象に残る学校行事」(中学校 n=277)

高等学校時の学校行事を挙げた時の具体的な内容を見ると、「文化祭・フェスタ・学芸会」の28.5%が最も多く、以下、「学園祭(文化祭+体育祭)」21.9%、「体育祭・運動会」18.8%、「修学旅行」9.4%と続いた。

これらの結果から、小学校段階では、「収穫祭・農業体験」が上位であること、「地域探検・自然調査・ウォークラリー」や「学習発表会」など、地域と関連した活動が上位であることが特徴的である。また、中学校や高等学校と比較すると、特定の学校行事(「文化祭」や「体育祭」など)への偏りが少ないことがわかる。

中学校段階では、「合唱コンクール・祭」と「体育祭・運動会」が2大行事として位置づき、全体の6割以上を占める。特に、「合唱コンクール・祭」は小学校・高等学校と比較して、そのポイントが高い(小学校1.4%、高等学校1.4%)ことが特筆すべき点であろう。

高等学校段階は、「学園祭」も含めて、「文化祭」と「体育祭」が69.2%で、全体の約7割を占めている。その比率は、小学校33.0%、中学校36.5%と比べて、約35ポイント高く、高等学校の中心的行事として捉えることができる。

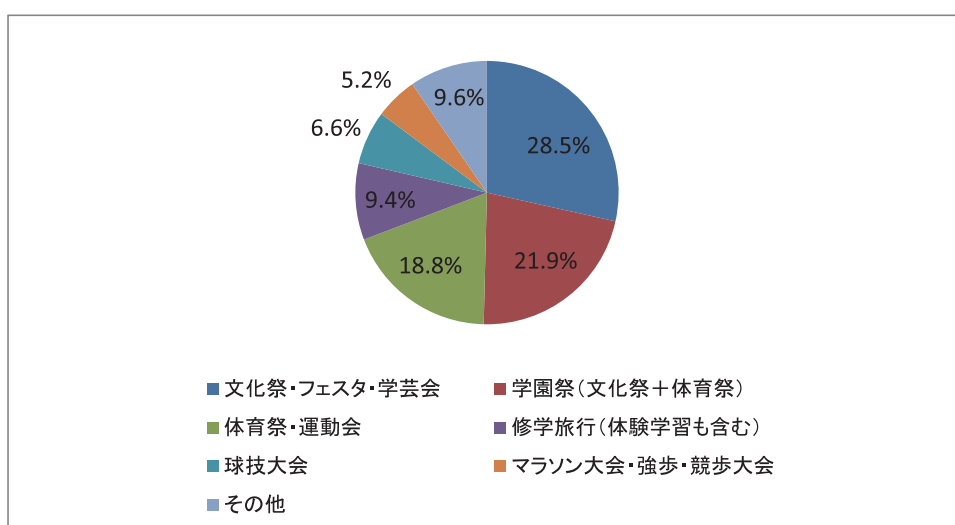


図4 「大学生の印象に残る学校行事」(高等学校 n=288)

4. 教職を目指す大学生が考える学校行事—岐阜市内中学校の遠足のプランニング

筆者が担当する教職科目「特別活動と学級経営」は、15回の授業をすべて、6人を1グループ（半期固定）としたグループでの活動に取り組んでいる。その中の課題の一つに、岐阜市内の中学校に勤務しているとして、春の遠足で生徒をどこに引率するのか、目的、目的地、行程表（活動内容、交通手段等の詳細）、費用（生徒1人あたり）と内訳、引率者の留意する点を協議し、レポート⁽¹⁹⁾するものがある。

その課題で、学生がどのようなプランを作成したのか、行き先に着目してみたい。最も多かったのが「岐阜城・金華山」の32.4%、以下、「名古屋市科学館」11.5%、「リトルワールド」7.2%、「岐阜市科学館」5.0%、「岐阜公園」5.0%と続いた。ただ、もう少し丁寧にみると、「岐阜城・金華山」「岐阜公園」「岐阜市歴史博物館」はほぼ同一区域内にあり、それが占める割合は41.0%で、約4割はその一帯を遠足の行き先として考えていることがわかる。その一方で、「名古屋市科学館」や「リトルワールド」、「明治村」、「名古屋港水族館」といった愛知県を中心とした県外を挙げている割合が33.0%となっている。

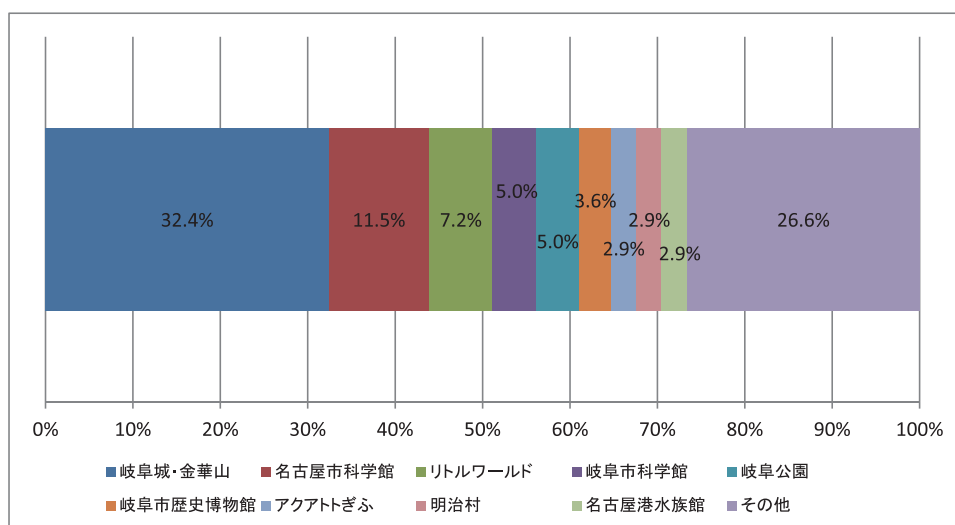


図5 大学生が考える「遠足の行き先」

5. 今後の教師教育の方向性

(1) 大学生の実態に即した検討

特別活動、特に学校行事などを企画・運営・支援する場合、教師自身がどのような学校行事の体験をしてきたのかに左右される。すなわち、自分自身の子どもの頃の学校行事体験が原体験となり、指導する際に表出するのである。一個人の体験してきた学校行事には、質量ともに限界があることは明らかである。そこで、それを補完する意味で、岐阜県も含めて、全国各地で行われている学校行事について情報交換することは有意義である。「特別活動と学級経営」では、そうした機会を意図的に設けているが十分であるとは言い難い。その証左に、印象に残る学校行事として情報交換の俎上に上るものは、中学校・高等学校の内容であり、その内容にも偏りがある。学校段階を配慮して、学習指導要領に示された学校行事（5分類）すべてについて議論を深める必要がある。

また、岐阜県に特化して捉えた場合、遠足の行き先に偏りがあった。様々な制約がある中でのプランニングであるため、仕方ない部分があることは否めないが、それにしても問題である。岐阜県内の様々な教育資源に目を向け、知識としてはもちろん、そこを活用して、様々な体験を蓄積することが求められる。学校の所在地や児童生徒数、教育課程内外の諸活動との関連、保護者や地域社会との連携状況などを加味すると、できるだけ多くの「引き出し」があることが望まれる。前年度踏襲型の学校行事が無難であることは首肯できるが、諸条件が異なれば、全く同じ活動でよいということにはならないであろう。そこにこそ、教師の創

意工夫が求められる。「引き出し」を増やすことはその一助であると思われる。

(2) 授業評価に即した検討

教職科目「特別活動と学級経営」の学生による授業評価に関して、「教養・広い視野」、「専門的知識・技能」、「判断・思考能力」、「コミュニケーション能力」、「自主性・向上心・探究心」の中でどれが最も身に付いたかを聞く質問がある（2011年度より）。

その結果、2011年度・2012年度とも、「コミュニケーション能力」（2011年度 A：42%、B：38%、2012年度 A：20%、B：20%）が授業平均（2011年度 6%、2012年度 6%）を14～36ポイント上回っていることがわかった。また、2011年度（A・B）は5項目中一番ポイントが高く、2012年度は「専門的知識・技能」に次いで2番目であった。

表3 「特別活動と学級経営」の授業評価

（単位：%）

		教養・広い 視野	専門的知識・ 技能	判断・思考 能力	コミュニケー ション能力	自主性・向上心・ 探究心
2011年度 後期	授業平均	14	57	8	6	15
	特別活動と学級経営 A	18	20	11	42	9
	特別活動と学級経営 B	12	26	14	38	11
2012年度 後期	授業平均	19	58	7	6	11
	特別活動と学級経営 A	16	45	10	20	8
	特別活動と学級経営 B	17	41	17	20	5

総じて、授業を通して「コミュニケーション能力」の向上に寄与していることがわかるが、教育実習生に必要な資質能力として、学級活動、児童生徒会活動では理論・知識、学校行事、クラブ・部活動では体験・経験が最も多く望まれるといった指摘⁽²⁰⁾を勘案すると、もう一步進める必要がある。

長沼らは、実際に遠足を実施して、引率をする教師役を体験した学生、生徒役の学生、それぞれの気づきや学びから、具体的な学習効果を示している^{(21) (22)}。また、実践力の育成を目指し、授業（特別活動の研究）の一環として、大学における大学祭を学校行事に見立て、イベント企画・実施への参画を通してマネジメント能力を高める取り組みも行われている⁽²³⁾。

「特別活動と学級経営」の置かれた授業環境⁽²⁴⁾を加味する必要があるが、より実践的な活動を盛り込み、様々な直接体験ができるように改善することが求められる。

注記

- (1) 玉井康之・久々江貴志「小規模校における学校行事と児童の意識－児童の興味から見た行事の意義－」『僻地教育研究』No.49（北海道教育大学）、1995、pp.55-61.
- (2) 長谷川祐介「友人関係に及ぼす学校行事の影響に関する分析の試み」『大分大学教育福祉科学部附属教育実践総合センター紀要』No.29、2011、pp.91-104.
- (3) 長谷川祐介「家庭背景別にみた学校行事の教育的意義－体育大会を事例に－」『比治山大学現代文化学部紀要』第16号、2009、pp.135-144.
- (4) 樽木靖夫「中学生の仲間集団どうしのつき合い方を援助する学校行事の活用」『教育心理学年報』Vo.44、2005、pp.156-165.
- (5) 山田真紀「競争的行事における活動の編成形態とその機能」『日本特別活動学会紀要』第8号、2000、pp.46-58.
- (6) 樽木靖夫『学校行事の学校心理学』ナカニシヤ出版、2013
- (7) 根津朋実・井上正允・田中統治「中高一貫校の異年齢構成による学校行事が果すリーダー形成機能－筑

- 波大学附属駒場中・高等学校「音楽祭」を事例としてー』『カリキュラム研究』第13号、2004、pp.107-120.
- (8) 鹽谷健・岡崎勝博・曾根睦子・遠藤正之・小澤富士夫・入江友生・高橋宏和・八宮孝夫「学校行事が生徒の人格形成に及ぼす影響について (3) 音楽祭」『筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告』第37集、1998、pp.199-216.
- (9) 岡崎勝博・辻弘・曾根睦子・遠藤正之・小澤治夫・鹽谷健・小澤富士夫・八宮孝夫「学校行事が生徒の人格形成に及ぼす影響について (2) 郊外学習」『筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告』第36集、1997、pp.177-195.
- (10) 岡崎勝博・辻弘・曾根睦子・遠藤正之・小澤治夫・寺田恵一・関口隆一・加藤勇之助「学校行事が生徒の人格形成に及ぼす影響について (1) 文化祭」『筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告』第35集、1995、pp.191-228.
- (11) 廣瀬真琴・矢野裕俊・梶川裕司「自主的な学校行事を通じた生徒の成長に関する事例研究」『カリキュラム研究』第19号、2010、pp.71-83.
- (12) 木内隆生「高等学校の儀式的行事に関する事例研究ー周年行事の構造化に着目してー」『日本特別活動学会紀要』第12号、2004、pp.63-72.
- (13) 西谷博文「高等学校における特徴的な学校行事とスクールアイデンティティ」『日本特別活動学会紀要』第17号、2009、pp.59-65.
- (14) 古市勝也・中川聡・ブストス・ナサリオ「「地域の教育力」を育てる新しいパートナーシップの形成に関する調査研究」『生涯学習研究センター紀要』第7号（九州共立大学・九州女子大学・九州女子短期大学）、2002、pp.111-128.
- (15) 日本特別活動学会「特別活動における人間関係の形成に関する調査報告書」2011
- (16) 高瀬博「中学・高校時における「特別活動（主に学校行事）」に対する大学生の意識について」『関東学園大学紀要 Liberal Arts』第15集、2007、pp.1-16.
- (17) 日本特別活動学会研究開発委員会「特別活動の社会性獲得に関する調査報告書」2011
- (18) 日本特別活動学会研究企画員会「日本特別活動学会10周年記念事業 特別活動調査報告書」2006
- (19) レポートには、次のような条件が付されている。a:岐阜市にある中学校から学校外へ引率する行事、b: 中学2年生・男女共学 30人×3クラス、c:引率教員数6名、d:日帰りで午前8時～午後5時の範囲内、e: 中学校発着、f: 貸切りバスの利用は不可
- (20) 石田美清・古賀一博・三村隆男・藤田武志「教職課程における「教科以外の活動の指導」に必要な資質能力に関する調査ー教育実習担当教員への調査を通じてー」『上越教育大学研究紀要』第23巻第2号、2004、pp.473-485.
- (21) 長沼豊・林幸克「教職課程科目「特別活動の研究」の学習効果の測定」『日本特別活動学会紀要』第14号、2006、pp.22-34.
- (22) 林幸克・長沼豊「教職課程科目「特別活動の研究」の学習効果に関する研究ー模擬行事実習の教員役と生徒役による差異に着目してー」『日本特別活動学会紀要』第16号、2008、pp.53-63.
- (23) 生田淳一・露口健司「特別活動における学校行事のマネジメント能力向上を目指した実践的取り組み」『教育実践研究論集』第2号（九州地区大学教職課程研究連絡協議会）、2006、pp.1-8.
- (24) 「特別活動と学級経営」は3年次後学期に開講される。10月から授業が始まるが11月は約1ヶ月間中学校での教育実習があるため休講となる。また、12月に再開してほどなく、年末年始の休みが入る。グループとしての集団凝集性が高まり始める頃に中断期間があり、グループとして、授業全体としてまとまりきれないもどかしさがある。

別表1 「大学生の印象に残る学校行事」(学校種・年度別)(単位:人)

	小学校			中学校			高等学校			中高一貫校			無記入			全校種合計			総計
	2010	2011	2012	2010	2011	2012	2010	2011	2012	2010	2011	2012	2010	2011	2012	2010	2011	2012	
	体育祭・運動会	6	1	4	27	31	29	14	19	21							47	52	
文化祭・フェスタ・学芸会	17	7	11	5	5	1	21	30	31	1	2	3			1	44	44	47	135
合唱コンクール・祭	2			39	28	25	2		2							43	30	27	100
学園祭(文化祭+体育祭)	1					1	18	16	29	1	2	1				20	18	31	69
修学旅行(体験学習も含む)	4	4	2	11	9	6	5	13	9	2	1					22	27	17	66
野外宿泊学習・通学合宿	6	4	4	5	5	2	2	2	2							13	11	6	30
球技大会			1				7	5	7		1					7	6	8	21
マラソン大会・強歩・競歩大会			1	1	2	1	5	3	7							6	5	9	20
収穫祭・農業体験	8	3	4	1		1		1								9	4	5	18
地域探検・自然調査・ウォークラリー	2	5	3			1										2	5	4	11
卒業生を送る会	4	1	1	1	2	1	1									6	3	2	11
スポーツ大会				1	2	2	1		2							2	2	4	8
職場体験				2	3	1		1							1	2	4	2	8
学習発表会	2	1	4													2	1	4	7
社会科学見学(大学見学)	2	2			1		1	1								3	4		7
縮刷り班活動	3	4														3	4		7
焼き物・砂の造形・しめ縄作り	1	2	1	1												2	2	1	5
卒業式				2		2										2		2	4
地域清掃・大掃除	1	1				1			1							1	1	2	4
スキー研修				2		1		1								2	1	1	4
資源回収・アルミ缶集め				3		1										3		1	4
遠足・ハイキング	1	1	1	1												2	1	1	4
地域の人々との交流	1	2		1												2	2		4
大縄大会	1			2	1											3	1		4
凧揚げ									2	1							2	1	3
立志式				1		1						1				1		2	3
芸術・演劇鑑賞会	1						2									3			3
生徒会選挙					1	1											1	1	2
白練流し									1	1							1	1	2
かるた(百人一首)大会			1					1									1	1	2
陸上記録会		1				1		1									2		2
宗教的行事(集会)								1							1		2		2
高齢者交流ボランティア						1												1	1
りんご皮むき大会			1															1	1
どんど焼き			1															1	1
部活動壮行会																		1	1
スピーチコンテスト									1								1		1
特別支援学校交流会					1													1	1

別表2 大学生が考える「遠足の行き先」(単位:グループ)

	2010年度	2011年度	2012年度	合計
岐阜城・金華山	15	17	13	45
名古屋市科学館	2	5	9	16
リトルワールド	2	5	3	10
岐阜市科学館	4		3	7
岐阜公園	1	3	3	7
岐阜市歴史博物館	2		3	5
アクアトトぎふ	1	2	1	4
明治村	2	2		4
名古屋港水族館		4		4
名古屋(白川公園周辺)	1	2		3
日本昭和村	1	2		3
養老公園	2		1	3
岐阜大学	3			3
東山動植物園	1	1		2
彦根城	1		1	2
大垣市街		2		2
畜産センター			2	2
日本モンキーパーク			2	2
犬山城	1			1
岐阜新聞本社・岐阜放送	1			1
百ヶヶ峰	1			1
長良川忠節橋付近	1			1
地域の農家	1			1
岐阜県美術館	1			1
かかみがはら航空宇宙科学博物館	1			1
関ヶ原古戦場	1			1
花フェスタ記念公園	1			1
谷汲山		1		1
塚原遺跡			1	1
長良公園			1	1
中部国際空港			1	1
でんきの科学館			1	1
ファミリーパーク			1	1
合計	47	46	46	139